

狂言学習を進めています（6年生）《NO.1》 能舞台の掃除を行いました



11月15日（水）に、6年生が、平之荘神社の能舞台を中心に清掃活動を行いました。

11月23日には、平之荘神社の能舞台をお借りして、狂言発表会を行います。会場を貸して下さる平之荘神社に感謝の気持ちをもちながら、33人で役割分担をして掃除をしました。子どもたちは、11月23日の発表会当日のことを頭に置きつつ、「当日、狂言発表会が成功しますように」とか「観客に思いを届けられますように」とか「緊張しませんように」等、いろいろ考えながら、一生懸命に掃除をしたことと思います。



平之荘神社での稽古が始まりました



山口先生が平之荘神社に到着されるまでの間は、各自で自主稽古を行いました。

舞台稽古開始！

11月16日（木）は、平之荘神社の能舞台をお借りして、6年生が狂言の稽古を行いました。

【めあて】

- 能舞台から神殿まで、自分の声を届かすこと
- 自分の声を届けるという意識をもつこと
- 観客に、演技を観てくださいと思うこと

- 自分の声が、屋外ではどんな届き方をしているのかを確かめましょう。
- 神殿まで声を届けようとすると、境内全体に声が届きます。
- 「観客に演技を観てください」と思って演技をすると、不思議と通じるものです。自分の思いが、観客に伝わります。そのことを、確認してください。

- 思い切って演じましょう。
- 絶対に早口にならないようにしましょう。「こんなにゆっくりいっていいの」というぐらいの速さで、いい加減です。
- 階段の所で観ている人は、演技する人の声を聴いてあげてください。そして、お友だちに教えてあげてください。

『附子』

「上手になったよ。」



【山口先生より】

「よく稽古したなあ。上手になっています。うれしいです。」

- ⊕「・・・やいやい両人のものおるかやい。」のところは、**歩くスピードを少し緩める。**
- ⊖⊖の「はあー。」を聞いて、
- ⊕**ふり返って**、「いたか。」
- ※セリフをゆっくり言うこと。

上手、上手。



【山口先生より】

「よく稽古しているのが、よくわかります。うれしいです。ことばの運び方もいい。」

立つ位置は、柱と柱の間に立つ。橋掛かりからのセリフが多いから、もう少し声を届かすことができるかな。橋掛かりは、舞台と声の届き方が違う。声が届きにくい時があるので、わずかなことだけれど、声を届かそうとすることが大切です。

【山口先生より】

「上手、上手。本当によく稽古をしている。セリフもテンポもすごくいい。」

舞台上で言うセリフと、橋掛かりで言うセリフが、同じボリュームで言っているけれど、そこをもうちょっと頑張ってほしい。



- ⊖「・・・身どもが思うは、あの附子をそと見ようと思うが、何とじゃ。」を克服すると、ステップアップできる！